関町小通信

令和５年９月２９日
練馬区立関町小学校
学校だより　１０月号

「Chat　GPT って・・・　？」

副校長　久保　慶介

長かった夏も終わりを迎え、少しずつ朝夕の風は涼しくなってきました。ようやく秋の訪れを感じられる季節となりました。

２学期がスタートして一か月、新型コロナウィルス感染症が５類となり、４年ぶりに引き渡し訓練を行うことができました。当日はあいにくの天気だったにもかかわらず、多くの保護者の皆様にご協力いただきましてありがとうございます。今年は関東大震災から１００年の年。災害は防ぐことはできなくても備えることはできます。過去の災害と向き合い、教訓を受け止め再び起きたときにどうすればよいかご家庭でも考える機会にしていただけたら幸いです。

時折ニュースにも挙がる「GIGAスクール構想」という言葉。その目的は「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させること」とされています。実際、急激に関町小にもICT環境が整ってきました。一人１台タブレット端末が整備され、教室の電子黒板を使って学習を進めることが日常となりました。タブレット片手に虫を探しに行ったり、発表するツールとして考えをまとめたり。その子供たちの利活用の幅といったら目を見張るものがあります。Class Roomで明日の予定を確認する等、きっとタブレットにふれない日なんてないでしょう。自分を表現する便利なToolの一つとして役立ててほしいものです。

ICTといえば最近、話題性が高いのが生成AIです。今年の３月、名古屋大学の杉山直学長が対話型人工知能ChatGPTを使って「人間らしく」と祝辞を披露したことが話題になりました。今年は自由研究で活用している児童もいます。会話形式で答えてくれるとっても便利なChatGPTですが、ある質問をしたら、こんな答えが返ってきました。

> 新美南吉の「ごん狐」は、狐の主人公・ごんと彼を取り巻く人々の物語です。ごんは人々を幸せにしようと懸命に努力する狐で、彼の周りには多くの友情や人間の善意が広がります物語は、ごんが子狐のコクタロウを育てる過程や、様々な困難に立ち向かう様子を描きます。また、人間との交流や狐としての使命感もテーマとして掘り下げられています。狐と人間の共存、自己犠牲、友情の重要性など、深いメッセージが込められた作品となっています。

何だか分かりますか？4年生の教科書に出てくる「ごんぎつね」です。『新美南吉の「ごんぎつね」を３００文字程度にあらすじをまとめて』とお願いをしてみた結果です。私が知っているごんぎつねとはずいぶん違った内容にまとめられましたが皆さんはいかがでしょうか。「ChatGPTを使って大学のレポートを作成した」「読書感想文を書いた」様々なニュースを耳にしますが、上の答えを見て、みなさんはどう思われますか。

実際にもうすでに場面を限定してChatGPTの「使い方教育」は各地で始まっています。作業の効率化や情報収集能力などその恩恵は大きいですが、あくまでも自分で能動的に考えることが大切です。集めた情報を取捨選択したり、友達や仲間との対話を通して新しい価値に気づいたり…。人が人ならではの共感する力やコミュニケーション力を発揮して、達成感・充実感を味わえる、そんな学び合う児童の姿を関町小ではこれからも目指していきます。